



ヤバい経済学

著者名	スティーヴン・レヴィット&スティーヴン・J・ダブナー	発行年	2007年
出版社名	東洋経済新報社	ページ数	379ページ
値段	2,000円	ISBN	978-4492313787
コメント	行動経済学系の本のなかでも、人ひとりの行動でなく、社会全体の構造をマナイタに乗せて料理しているところが特徴です。犯罪の発生率の劇的減少を中絶の合法化から説明する、というように。 ひとつのテーマの掘り下げがそこそこ深くて、あまりコマギレでないのもGOOD。そして、語り口の軽やかさは、さすがベストセラー。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数（時間）

立ち読みポイント

投稿時間

frog ☆☆☆	題名には、「経済学」という名前がついているが、経済学に関する専門的な知識は必要なく、どちらかというと雑学の本という印象で比較的読みやすい本でした。相撲の力士やヤクの売人、子育てに関することなど、様々な物事の裏側を人々のインセンティブに着目して、統計・データをもとに明らかにしていくという内容のもので、一般的に考えられていることや専門家たちの意見を、否定していく様は痛快でとてもためになると思います。ただ、ヤクの売人や、子どもの名前の話は、アメリカが中心の話なので馴染みのない部分があり少々退屈でした。 個人的には、第4章「犯罪者はみんなどこへ消えた？」でアメリカでの犯罪率が急減した理由がとても衝撃的で、関係のないように見える二つの物事が因果関係にあることがデータをもとに示されていて、色々と考えさせられる内容でした。 最後には、「タイムズ」誌の記事やコラム、作者のブログなど盛りだくさんで、明日から友人に話したくなるような豆知識が詰まっています。		
	全部	407P (360分)	161~171 2020/11/30 21:14:54

たっぷりTARAKO ☆☆☆☆	この本は、割と身近な事象を経済学の視点から紐解いていくというものである。コラム調なこともあって比較的読みやすいかなと思った。ただ翻訳だからか語りがとても軽いので、苦手な人もいるかもしれない。また、全体的にとっても面白かったが、どうしてもアメリカベースで語られているため、日本国内の話と結び付けたいと考えている人は注意したほうがいだろう。不正や犯罪など普段経済学とは関係づけることなどない事象を真剣に分析して因果関係を示しているの、あまりかしこまらずに読めるところがこの本の良さである。専門書というより読み物として扱うのがいいのではないだろうか。 内容に関しては人はインセンティブで動く、という考えが面白く、論点に行動経済学に近いものを感じた。「世の裏側」に重点を置いており、普段何気なく見過ごしている物事への新しい見方の提唱がとても衝撃的で、自身の固定観念や無知にも気づかされた。（例えば犯罪率の裏側に「中絶」が絡んでいることなど）ただ、初めにも述べた通りコラム調
--------------------	---

	で、世の裏側という一貫したテーマはあるもののあまり論理がある本ではないかなと思ったので読むときには気を付けたほうが良いと思った。			
	すべて	407P (340分)	137-171	2020/11/30 14:25:53
ROLAND ☆☆☆☆☆	「ヤバイ」という言葉遣いから分かる通り、本書を読むのに経済学の専門知識は必要なく、日常生活にありふれた事象の裏事情を、アメリカンジョークを交えながら暴くという内容だ。例えば、「妊娠中絶の合法化がアメリカにおける犯罪を減らしている」と聞くとあなたは思うだろうか。また、「学校の先生は自身のパフォーマンスを誤魔化すためにインチキをしている」と聞くとどう思うだろうか。本書では、さまざまな統計・データを、一般的なものとは異なる視点で解釈してユニークな見解を示していて、まさに「悪ガキ教授」という感じがする。アメリカに経済学ブームを巻き起こし、400万部のベストセラーとなった話題の書であり、2010年には映画化されているほどの人気を誇る。世の裏側を知った気分になれる本書は、内容もとっつきやすく、文字も比較的大きいので読みやすいので全世代におすすめできる良書である。ただし、本書の内容を鵜呑みにするかどうかはあなた次第である。			
	全部	407P (240分)	19-59	2020/11/30 01:18:40
unknown
 ☆☆☆☆☆	この本は、今までと違う見方で物事の因果関係を解き明かしていくとても面白い本です。専門家たちの自分勝手な意見やこじつけを数値やデータを用いてひっくり返していくので読んでいてとても痛快で読者を飽きさせないです。経済学と本の題名になっていますが、専門的な知識は一切出てこないで、あまりかしこまって読む必要はないと思います。 この本を読んで得られることは、物事の見方は様々であり、思い込みで見てはいけないという教訓と、友人にちょっと自慢できるような豆知識だと思いました。特に、おまけの部分では何個も面白い、だれも調べなかったようなことについて書かれているので、立ち読みの際に一つでも読んでみるといいと思います。個人的には、セックスの経済学面白いと思いました。皆さんもこの本を読んで、柔軟な思考と、ちょっとした豆知識を身に付けてみてください。この本に書かれていることももの見方の一面にすぎないかもしれませんが…。			
	全部	400P (420分)	おまけの部分	2020/11/30 00:02:48
えると ☆☆☆☆☆	帯には「経済学なんて知らなくても楽しめる」と書いてある。「なんて」という表現がかなり攻撃的だ。ここでのいう経済学とはなんだろう。というのも、本文を読めば読むほど、経済学を感じるからだ。（もちろん、経済学者が書いているから。）経済学を知っていればより面白いはず、より理解が深まるはず、だと思える。著者は「経済学入門」では学べないような面白い内容を扱っていると書いている。そう、まさにそういうことだと思う。「頭がよくて視野の広い経済学者が、世の中にある様々なインチキを、経済学を通して磨いた思考実験の力をもとに一部紐解いてみた」というような本である。キャッチーなタイトルでありながら内容は実に学問的で深い。 この本を読んでいると、「本質」と「現実」に目が向く。 先生や相撲力士、会社員、みんながインチキを働く。広く言えば自分を守るためだ。一部の先生はインチキな方法で生徒の点数を上げることで自分のパフォーマンスをごまかし、生徒の学習機会を奪う。では評価方法を変えるか。そもそも教育って何なんだ…。小さなインチキを深掘って考えると、忙しい日常の中で見逃してきた本質に触れることになる。また、立ち読みポイントに出した箇所は、社会の現実だ。「どうして低賃金・ハイリスクな薬の売買“なんか”するのだろう」という疑問に答えてくれる。 決して机上の空論ではない、頭をぐるぐるとかき乱してくれる、ヤバイ教科書だ。			
	1-407ページ	407P (300分)	132-133ページ	2020/11/29 07:06:23
unknown
 ☆☆☆☆☆	この本は世の中であまり注目されていない不条理や問題について、筆者がアメリカ特有の口調とジョークを交えながら教えてくれます。本の内容はアメリカのものがメインですが、			

日本の相撲界にも触れられており神聖なスポーツである相撲のタブーである八百長問題について衝撃的な事実が書かれています。今現在、覇権問題や暴力問題で揺れる相撲界に対して一切の信頼が無くなってしまいました。どこからそんなデータ集めたのだろう、と思ってしまうような内容が次から次へと現れさすがはデータ分析の最先端をいくアメリカだなと思いました。アメリカのタブーに切り込んでいるだけあって白人と黒人の待遇の差がメインな内容になっており人のインチキやそれを行うためのインセンティブ、相関関係と因果関係など行動経済学の知識を用いてグレーな問題に対して切り込むようになっています。とりあえずこのコメントを見てくださってる方には不動産屋さんは自分のことしか考えていないからあまり信用しない方がいいよとだけ伝えておきます。（笑）

1-255

255P (180分)

44-48

2020/11/28
13:27:25

[TOP](#)△



競争と公平感

著者名	大竹 文雄	発行年	2010年
出版社名	中公新書	ページ数	245ページ
値段	780円	ISBN	978-4121020451
コメント	何を以て「公平」と認定しますか？ 社会が大きく壊れてしまった3・11以後、この問いはとても切実に響きます。 職業や賃金は能力に応じるのが公平？ でも、努力と能力は比例しないわけだから、がんばっても低賃金、怠けても高賃金になっちゃうけど、それでOK？ 諸外国と日本との価値観の違いなど、データをもとにたくさんの問題の切り口を提示してくれます。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

こー ☆☆☆☆	本書はタイトル通り、競争と公平さについて述べている。それだけ聞くとつまらなく思われるかもしれないが、全くそうではない。というのも、切り口が非常に多彩なのである。一口に競争と言っても、市場競争のメリット、日本人が競争嫌いである原因、男女間での競争への選好の違いや社会の違い(男社会か女社会か)による競争への選好への影響、などなど話題が多岐にわたる。公平さに関しても同様、最近の様々な社会問題(非正規社員、長時間労働等)が及ぼす公平さや格差への影響を述べてくれている。さらには、全ての話題を語る上で根拠となる論文の内容を示してくれる上、それと対立する意見の論文、筆者の意見もしっかりと述べてくれる。最近の社会に関する話題だけでなく、それに対する様々な視点も知ることができ、至れり尽くせりである。社会を全く知らない人が大まかに学習するのに、より深い視点を持ちたい人にも、どんな方でもお勤めできる一冊である。			
	1-228ページ	228P (360分)	193-201ページ	2020/11/30 21:39:54

unknown ☆☆☆☆	時代が進むにつれて、日本経済はその状況を刻々と変えてきました。そして、様々な問題が浮上し、その度に政治家たちは論争を展開し、その様子は逐一テレビのニュースや新聞で報じられてきました。彼らが打ち出してきた政策によって人々の生活は好転することあれば悪化することもあり、選挙は人々がその政策に対して評価を下す機会とみなすこともできます。 近年、日本では選挙が行われる度に投票率の低下が話題になります。特に若者の投票率の低下が顕著で、「若者の政治に対する関心が薄れてきている」というのがよくある指摘です。しかし、それに加えて、「若者が経済の仕組みをわかっていない」ことも原因にあるのではないかと私は考えます。 本書では、労働経済学および行動経済学の専門家である著者が、現代の日本の雇用情勢や日本人の価値観、さらには幼少期の教育・発達環境と収入の関係といった様々な調査、研究の結果をもとに、日本経済の仕組み、および今日の日本経済がどのような問題を孕んでいるかについて分かりやすく述べています。 本書を読むことで、今の政治家たちの政策が正しいものなのか、選挙でどの候補者に投票すべき
-----------------	---

なのかを判断する際の考え方を身につければ、より多くの人々が選挙に参加し、より民意を反映した社会の構築につながるのではないかと思います。是非とも読んで頂きたい一冊です。

全部

245P (300分)

193-196ページ

2020/11/27
11:11:33

水上淹太郎
☆☆☆☆

本書の著者、大竹文雄・大阪大学経済学部教授は、日本学士院賞を2008年に受賞した、労働経済学の権威である。本書は、日本国民の間で他国と比して顕著な、市場機構への不信感をまず確認した上で、そのような不信感を一つ一つ丁寧に議論して解消していく。

本書は、題目『競争と公平感 市場経済の本当のメリット』が示すように、市場機構が強い競争というものが、本来一国経済のパイ、すなわち総生産を増大し、最も全体の経済厚生を高めるが、そこでの分配の不平等を、セーフティーネットや課税によって修正するべきである、との姿勢で一貫して記述されている。従って本書の読者は論理展開の一貫性から、極めてフォローしやすい文献であると感じるであろう。

本書は、門外漢のための経済学入門としても価値があるが、経済学徒が卒業論文・修士・博士論文その他を執筆するに当たっては、先行研究の最も優れたレビューになるであろう。筆者一流の網羅的な紹介によって、このコメントの作成者もまた、大変勉強が効率的になった。

3章5節は外国人労働者の受け入れ拡大にともなう、自国の労働市場への影響についてのレビューと少々の見解が記されている。この分野の研究は未だ見解の統一をみないが、主要な先行研究の見解の相違点、一致点、その相違の由来が大変よく整理されて過不足ない。

かつて、福澤諭吉は、幕府の命を受けて経済書を和訳するに際し、competitionを「競争」と訳したところ、幕府は大変不穏な響きのするその訳語を改めるように申し付けたそうである。これは日本人に今もお根強い競争への抵抗感の発露であろう。しかし、本来、筆者が指摘するように、市場競争とセーフティーネットとはセットで用意されるべきであり、競争によって勝者・敗者のどちらかになる社会はあるべき姿ではない。本書はこの一貫した姿勢によって、多数の読者の陥りがちな誤解をとく、最良の本となるであろう。

全部(pp.1-245)

245P (360分)

pp.25~54(1章3~5節)

2020/10/10
16:53:02

[TOP](#)



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

美貌格差

著者名	ダニエル・S・ハマーメッシュ	発行年	2015年
出版社名	東洋経済新報社	ページ数	254ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4492314531
コメント	よのなかねかおかおかねかなのよ——じゃなくって。顔とお金は相関するんだよ、というこわーいお話。 女性の場合、容姿がいいと収入が8%もアップするんだって、マジ？　じゃあ、ブサイクは法律で保護されるべきなのか、どう思う？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント
立ち読みポイント

投稿時間

↑天才 ↓変な人
☆☆☆☆

私は美に固執していた時期がある。私の中高では顔が可愛ければちやほやされ太っていたり不細工だったりする女性はスクールカーストの再下位層になるような状況であったため如何に可愛く見られるように過ごすかが重要であった。「なんであんなブスと話してるの？」男子が友達同士で話していた会話を聞いてしまった時美しくない存在だと実感し息苦しく感じた。可愛く繕わなくても圧倒でき美貌を誇る友達を見ては妬みよりも羨ましかったり守りたくなったりする感情の方が大きかった。そんな風に青春の大部分を過ごしていた私は醜形恐怖症になったり自分はブスだから生きていけないという思考になったり辛い思いをしていた。大学に入りそんな考えは消えたが、この本を手にしたときに自分の中にあった「美貌格差」が浮き彫りになり読まずにはいられなくなった。前置きが長くなってしまったが第一部では人の美しさの認識について語られている。大方の人は美しか否かの物差しに相違はないという。若い時に美しいと判断されて人は年齢を重ねても美しいと評価される傾向が高いという点が悲しくなった。第二部では美人は収入が高いこと、見た目はいかに重要かが「働く」という観点で書かれている。第三部では経済ではなく結婚や友人という人との関係での見た目がもたらす効果と、不細工は保護するべきなのかという観点から法律での美形について議論されていた。第四部では今まで述べてきた「いかに美人は得をするのか」を復習しながら不細工は何ができるのかを語っている。結論はネタバレになってしまうが、不細工は美人と比べて収入なども低いし見た目が重視される現代で内側を磨いたところで美人には勝てない、どうしようもないという衝撃的な結果だった。見た目を磨こうと思ったが、取り繕うことで改善できるのはある程度であると書かれていたので、生まれながらの見た目や整形がいかに重要であるかを思い知った。どんなにそれが理不尽であってもそういう現代で私たちは生きていかなければならない。早くそのことを知れてよかったと思うべきなのかもしれない。

全部

254P (380分)

第4部

2020/11/30
23:33:11

じょおおおおおん
☆☆☆☆

この本のおすすめポイントは、経済学は経済学でも視点が特殊で興味がそそられるということである。しかもその視点というのは見た目の美しさが年収に影響するとか、美人だ

と何を損するかだったりテーマなので普段疑問に思いそうなことが多いからとても読みやすいと思った。タイトルは結構攻めているものもある。不細工な人は保護されるべき？や不細工の行く末だったり。誰が読もうとしても一つぐらいは読んでみたい章がきつと見つかるであろう。まだあまり経済学についてわかっていない人が初めて経済学について知るのにはおススメの本でないで、ほかの簡単な入門の経済学の本を読んでみることをお勧めする。興味を持ってもらうために少し紹介をすると不細工を法律で守るという章ではデートと結婚の市場以外では用紙の劣る人なりアフリカ系アメリカ人なりを女性に置き換えても同じ議論が成り立つ。教育水準が同じでも女性の稼ぎは低い。不細工な人たちに対する露骨な差別とそれが同じ仕組みだと語られている。

全部

254P (360分)

209

2020/11/28
03:13:16

unknown

☆☆☆☆

あなたが思う不細工な人は、本当にみんなが見ても不細工な人に見えるの？このことを統計的に調べていく事からこの本は始まる。

衝撃なことに不細工ときれいな人で生涯年収の差に2700万も生まれてしまうらしい。確かに私も美人な人とデートするなら多めに、いや全額払ってもいいと思うが、この生涯年収にこのお金は含まれてないのだから驚きだ。では、なぜこのような差が生まれてしまうのか、不細工だからと言って意識的に差別されているわけではないのに。それなら不細工を保護するべきなのか。

個人的に面白かったところは、不細工を保護するとかじゃなくて、美貌と恋愛の関係についてのところだ。男の人は相手に内面やステータスよりも外見を重視する傾向があり、女の人は、外見も重視するものの、経済力を重視する傾向があることだ。つまり、お金持ちになれば、不細工な私でも美人と結婚できるのだ。前沢社長が剛力彩芽を射止めたように。まだ希望が潰れてないのだ、お金持ちになる努力をしなければならない。

全て

240P (360分)

第2部

2020/11/09
16:30:55

[TOP](#)



「学力」の経済学

著者名	中室 牧子	発行年	2015年
出版社名	ディスカヴァー・トゥエンティワン	ページ数	199ページ
値段	1,728円	ISBN	978-4799316856
コメント	将来、正しい教育パパと教育ママになるために、今のうちにしっかり予行演習しておきましょうか。ケーススタディや観念論でなく、きっちり数字で語る教育効果の測定、説得的です。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

つくし
☆☆☆

「勉強」。それはこの授業を受けているなら「経験したことないです」なんていう人はいないだろう。おそらく大多数の人は学校の中でも勉強の得意なグループに分類されていたはずだ。ではその勉強方法は正しかったのか。幼少期の勉強に対する感じ方や親の教育方法は今に影響しているのだろうか。

本書で取り扱っている教育は小中学校の学習方法などが主だ。例えば「平等主義」や「少人数教室」「テレビやゲームと学力の関係」など懐かしく感じるものも多い。特に「勉強しなさい」という言葉に対してどんなイメージがあるだろうか。多くの人が「嫌な言葉」ととらえていると思う。私なんかはむしろ勉強する気を削がれる。本書にも「むしろ逆効果」なんて書いてあり、「本当にさせたいなら隣で勉強を見ることが大切」と記されている。なるほど確かに隣にいられたらさぼるわけにはいかない。

こういったように昔感じた教育にまつわることの考察が多く取り上げられている。ただ一つ残念なのがエビデンスは統計が多いということだ。学力などのデータだけではそれ以外の要因があったのかもしれないという疑念がぬぐい切れず、説得力として少し乏しい。そこで私は参考文献としてではなく一つの提示案として本書を読むことを提案する。子育て方法に悩む親は多い。世間には指南書があふれ情報の洪水がおこり、忙しく目まぐるしい子育て中に大量の情報を処理する時間なんてない。そこでぜひ本書を使ってほしい。完結に物事が記されており短時間で理解しやすく、自分で納得できなければ実践しなくて構わない。

いつか来る子育てのために本書を頭の片隅に置いてもらいたい。

全部	180P (100分)	58-62ページ	2020/11/30 22:21:43
----	-------------	----------	------------------------

マホロア ☆☆☆☆	本書はデータを用いて教育を経済学的に分析した結果を簡潔にまとめ、教育経済学者である著者が日本の教育の問題点を指摘している本である。教育に関する分析結果は日本人の感覚とは異なるものも多く挙げられており、本書を読むことで今まで誤解していた認識を改めることができる。例えば「褒めて育てることはいけない」、「ご褒美で釣ってもよい」など、今までメディアで取り上げられていた内容とは異なる事実が本書では取り上げられている。どのような実験のどのようなデータから何が分かるのかが明確に示されており、経済学や統計学に詳しくない人も十分に理解できる構成になっている。将来自分が親となった時に必ず役に立つ内容が多く書かれている。 日本の教育の現状と問題点としては、教育政策に関心を持っていなければ知ることのない事実も多
--------------	---

	く述べられている。今まで教育に詳しくなかった人でも、本書を読むことで日本と海外の教育政策の違いなどについても知ることができる。この本で書かれているデータに基づいた正しい教育方法には実際の体験談と矛盾することも含まれているかもしれない。しかしこの本は統計に基づく期待値の高い教育方法とは何かを数多く教えている。新たな知識を提供して本として、読む価値のある本である。			
	1-185ページ	185P (240分)	1-7ページ	2020/11/30 21:20:59
ニャンコ ☆☆☆☆☆	データを使って物事を論じるとはこういうことだ！というのを嫌でもわからせてくれるとても良い本である。子供をご褒美でつっちは行けないのか？や、他人の成功体験は我が子にもいかせるのか、といった学力に関する悩みに対する答えを科学的根拠に基づいて答えている。将来、もし子供ができたとしたらこの本を参考にして教育をしてみたいと思えた。アメリカでの教育に対するさまざまな実験のおかげで、エビデンスを得ることができているが、日本の実験というのは見当たらなかった。日本でも積極的に学力に関する実験をおこない、より良い教育のあり方をもさくすべきであると感じた。 立ち読みポイントについて、このページは子供を褒めて育てるべきかについて証拠をもとに論じている。私は、褒めて育てることはいいことで、メリットしかないと思っていた。しかし、実験の結果はそうではなく必ずしも成績はあがらず、逆に下がってしまう人もいるというもので、いままでそうだと思っていたことが覆されてびっくりした。			
	1-199	199P (180分)	41-44	2020/11/30 15:35:19
とうふ ☆☆	本書はタイトルの通り学力にフォーカスをあて、様々な統計や実例から結論を下していく内容が多岐にわたって書かれている。 具体的には「はじめに」で述べられている『ご褒美で釣っても「良い」』『ほめ育てをしては「いけない」』『ゲームをしても「暴力的にはならない」』といった、いわゆるメディアで広まっているような一般論とは反対の主張を先頭に述べている。これは本書に引き込まれた要因の大きなものである。 ここについて少し気になる点として、統計の出所が結論ありきで偏っているような印象を受けた。その反面多岐にわたって論を支えるデータ、具体的な数値が提示されている。 「はじめに」に書かれているとおりではあるが、やはり一般論の主張の否定を明確にせず、主張したい論の肯定を繰り返しているようにとらえてしまったので、後半は少し手が進まなくなった。			
	全部	199P (180分)	62-70	2020/11/30 02:38:40
messi ☆☆☆☆☆	本書は、現在日本の教育が抱えている問題について論じており、その中でも日本の教育に関するデータ、資料が不足している現状を訴えている。 内容としては、世界各国にて集計された教育データを用いて得られた統計的見解を用いて、日本の教育に根づく「直観に基づいた施策の立案・実行を行う現状」を批判している。なかでも、我々日本人強いては教育を受けたあらゆる人間が一度は体験したことであろう状況を具体例に挙げており、専門知識を持たない読者でも容易に理解できるよう設計されている。 大学生にとって馴染みやすい例を一つ挙げておくと、大学の授業期間において期末試験期間やレポート提出期限に近づくほど「生徒の祖父母の死亡率が上がる」というデータがある。もちろん大方の学生は、この状況を「悪い試験結果やレポート未提出の状況を鑑みた上での言い訳」という風に捉えるであろう。 という次第である。他にも、小中高と教育を受けてきた大学生であれば、興味を抱くような具体例や教育方法等がデータに基づいて述べられているため、是非とも読んでいただきたい一冊である。			
	1-199	199P (150分)	182-183	2020/11/29 22:21:36
kororo ☆☆	僕は東工大に入るために浪人した。その中で一番大切だと思ったのは勉強のやり方であると思ったからこの本を読んでみた。 この本を読んで納得できる部分と納得できない部分があった。子供にどんな風に勉強させればいいのかというのは人それぞれで統計的に正しくても、それが合わない人も多数いるので、僕が納得できなかったところを書きたいと思う。			

子供たちは、今ちゃんと勉強しておけば、将来の収入が高くなるということがわかっているのに、近い将来の満足を優先するとあるが、本当にそうだろうか。自分自身今のくらい勉強すればどのくらい年収が上がるのかわかっていないのに、小学生の子供が将来の収入が高くなることを理解しているのだろうかと思った。

また、この本では、褒めて学力を伸ばそうとすることをあまり推奨していない。その根拠として、やればできるとメッセージを受け取った生徒の学力が下がったという実験がある。「やればできる」は誉め言葉なのだろうか。勉強を頑張っている生徒に対してその言葉は、あなたは勉強をちゃんとやっていないという意味になりうるし、勉強を頑張っていない生徒にはやればできるという根拠のない自信をつけさせる言葉でしかない。僕は水泳を習っていた時、はめて伸ばしてくれる先生の方がやる気がでて上達したし、多くの人がそうであると思う。

1-180	180P (150分)	32-36	2020/11/26 15:32:29
-------	-------------	-------	------------------------

monica
☆☆☆☆

この本は子どもの学力を上げるためにどうしたら良いかや、家が金持ちな生徒は学力が高いなどの世間で盲目的に信じられている傾向に対して統計を用いてしっかりと答えを出していくという本である。そのテーマとして「親の収入と学力の関係」「子どもをご褒美で釣るのは効果があるか」「勉強は本当に必要なのか」「少人数学級は効果があるのか」「いい先生とは何か」などについて議論している。私が特に興味をひかれたのはご褒美で子どもを釣ることへの学習効果である。自分も小さい頃は「良い点数を取ったらご褒美をあげる」と言われて勉強へのやる気が湧いたことがあるので非常に共感でき、興味深いテーマだと思った。本の中で紹介された実験では「勉強した時間に対してご褒美をあげるか結果に対してご褒美をあげるか」と「ご褒美はお金が良いのか他のものが良いのか」という点で実験が行われた。結論を言うと、勉強をした時間に対してご褒美をあげて、子どもが小さいうちは現金以外の物の方が良いとの結論となった。私としては小さいときに現金以外というのは感覚として納得できたのだが結果でなく時間に対してのご褒美のほうが良いというのは意外だった。

1-199	199P (240分)	NO.252~NO.420(kindle版なので書籍とページが違います)	2020/11/08 12:54:45
-------	-------------	--------------------------------------	------------------------

[TOP](#)



「家族の幸せ」の経済学

著者名	山口 慎太郎	発行年	2019年
出版社名	光文社新書	ページ数	264ページ
値段	820円	ISBN	978-4334044220
コメント	幸せを計量分析!? 結婚とか家族とか子育てとか、とても身近な関心事。そんな人生の重要な選択肢にも計量分析の射程がぴしりと届くようになってきました。 どんな仮説を立て、どんなデータを集めて分析するのか。 良いサンプルが並んでいるので、研究のテーマ探しにも役立ちそう。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数 (時間)

立ち読みポイント

投稿時間

Matsuzawa ☆☆☆☆☆	結婚、育休、保育園など多くの視点から「家族の幸せ」を経済学的に考察した一冊。幸せという一見数値化しにくい概念を統計データを基に考察していくのは大変面白い。経済学というよりは統計を基に話は進んでいく。 内容に関しては、身近な話題を一風変わった切り口で考察を進める。話題の多くは我々の日常的なことで大変読みやすく、納得を得られる。ただしデータは海外のものが多くあるのですべてが参考になるとはいいがたい。事実欧米と日本では育休取得率などに大きな差がある。そういう差異も踏まえた上で読む分には大変興味深い本である。また本もそれほど分量が多いわけではなくサクッと読めるのもポイントが高い。 本書では、どのようにすれば家族が幸せになるかの明言はない。しかし、それはマイナス面ではない。一人一人価値観が違うのは当たり前であり、幸せの形も違うからだ。ただし、なにも知らず学ぶことなく自分を幸せだ不幸だというのは少々空しい。この本を読むことで、「当たり前」や実は間違っていることなどを知り、今一度今の幸せやこれからの幸せを熟考していただきたい。			
	259	259P (180分)	139-174	2020/11/30 15:36:43

落差 ☆☆☆☆☆	「幸せ」とかいいう定量的に測れそうもないものを色んなアプローチから検証している内容で大変興味深かった。光文社新書は読みやすいものが多い気がしていて新書では好んで買うことも多いが、この本は中身のフォントが丸っこいものになっていたり、太字がはつきり且つ多く使われていたりしていたので敷居を低くして読みやすいものにしようとする配慮を勝手に感じ取った。また、各章で扱われている題材も分かりやすくまとまっており、どういった内容がどう関係しているのかといった論理構成が大変美しく、各章末尾に丁寧に列挙された参考文献のおかげで参考文献の原題のニュアンスを含めて章ごとの内容を理解できたと考えている。元々私自身興味がある内容であることを鑑みると扱っている内容が面白いのは勿論であるが、そうでない人にも読みやすいものであるのではないかなと思う。			

	全部	259P (240分)	229-238	2020/11/30 07:29:05
--	----	-------------	---------	------------------------

mauro ☆☆	「帝王切開はよくない」、「あかちゃんには母乳がいい」といった育児や出産に関する迷信を聞いたことはないだろうか？本書では、そういった迷信に関して、経済学の観点から、おもに統計を用いて調べている。したがって、「どのような育児をすると、どのような結果となるのか」というふうに論じられている。僕は、現代日本における結婚に疑問を感じていたため、結婚するメリットやデメリット、「家族」の幸福のかたちなどといったものを本書に期待していたのだが、そういったことについてはほとんど述べられていない。「家族の幸せ」と銘打っているくらいなのだから、こういった内容のことが書かれているものだと思っていた。個人的には、タイトル詐欺ではないのかと感じた。しかし、すでに人生のどこかで結婚をすることを決めており、どのような相手と結婚するとどういった家庭になるのか、子どもはどのような育ち方をするのかなどといった悩みを解決したい人にとっては非常に役立つ本であるだろう。			
	1-259	259P (160分)	92-95ページ	2020/11/13 14:53:32

かにかま ☆☆☆☆	※電子書籍で読んだので、ページではなく%表記です 本のタイトルの「家族の幸せ」と「経済学」は一見水と油の関係のように見えます。それは、経済学は客観的な数字であるお金を扱う学問だが、家族の幸せは主観的なものだからです。しかし、今日の計量経済学の分野では「家族の幸せ」というテーマでも一定の分析結果が出ています。データ分析の過程は計量経済学の分野なので、実はこのテーマはよく馴染むんですね。 自分の立ち読みポイントはまず第一章一節の結婚の経済的メリットの話。「費用の節約」「分業の利益」「リスクの分かち合い」の3つの経済的メリットがあり、女性にとって分業の利益が小さくなってきていることが未婚率上昇の一因だと考察しています。 また筆者は要所所でデータ分析の重要な考え方を伝えてくれています。当たり前だと思っていることをデータで確認することが重要であること（一章）や、他国での分析結果が日本にそのまま当てはまると考えるのは危険であること（三章）など、本業を生かした注意を読者に与えてくれています。 この本を読めば、自分のライフプランを考える助けにもなるし、データ分析の考え方も知ることができる、まさに一石二鳥の一冊です。			
	1-264	264P (200分)	15%	2020/10/16 11:37:22

unknown
 ☆☆☆	この本は家族の在り方についてどのような行動をとるのが最も合理的かを様々なエビデンスをもとにわかりやすく説明してくれています。家族を構成するにあたって有益な情報が数多く載っており、育児のありかたやマッチングサイトの是非、幼児教育の重要性などをデータをもとに一つの考え方を示してくれます。特に日本の育児休暇の取得率が低いのは制度が整っていないからではなく、勇気を出して育児休暇を取得する人が現れればたちまち育児休暇は普及したすというのは驚きでした。 p180には巷で噂のベリー就学前プロジェクトのことも書かれてありこのとてつもない大掛かり調査をやり遂げるアメリカの研究に対する熱意を感じました。 筆者は経済学の先生であるため数多くのデータを統計学を用いて分析していますが読者が理解しやすいよう直観的に見わかるデータは載せ難しそうな内容は筆者の言葉でわかりやすくかみ砕いて説明してくれているところも魅力の一つです。 「一生独身でもいい！」という人以外はぜひ一読してほしいです。			
	1-253	218P (180分)	130-138,18-1850	2020/10/09 01:49:07



なぜ3人いると噂が広まるのか

著者名	増田 直紀	発行年	2012年
出版社名	日本経済新聞出版社	ページ数	239ページ
値段	850円	ISBN	978-4532261559
コメント	ネットワーク分析の応用範囲の広さが楽しい。グーグル検索エンジンはもちろん、インフルエンザの感染も、生物の食物連鎖も、スポーツ選手の世界ランキングも、ああそういう観点で見てるのかと納得。 じゃあ、自分は何に活用してみようかなと触発されるヒント集です。その意味では前半がおすすめ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

とうふ ☆☆☆☆	感染ネットワークに関連した、噂の伝播や感染症の広がりなどを解説している本である。大きく前半はネットワークそのものや、その「中心性」について、後半は本書のタイトルにもある通り「三角形」について書かれている。 ネットワークの「中心性」、影響の大きい個体を考える際に、純粋につながっている数だけではないという話があり考えて言語化することのない内容で面白かった。図や具体例を用いつつ分かりやすく解説している。 後半の「三角形」について、ネットワークにおける三角形の構築は重要なことである、という話があった。内容として少し難しい題材をテーマに扱っている感想だった。ただ、これを人間関係にも当てはめて、例えば友人同士を紹介し合うことだったり具体的な例を頻繁に上げて活用する方法まで提示しているので、ネットワークが持つ様々な意味合いや可能性を初めての人にも丁寧に説明していると感じる。 立ち読みポイントとして、現在の流行である医療現場において、ワクチンを誰に使用するのかという話をあげた。 ここでは、ネットワークの結びつきについてどのようにとらえるのか、活用していくのが沢山の図と共に説明されていてこの本の主張をわかりやすく説明しているので、コロナのワクチンなどについて興味があれば、この部分だけでもぜひ読んでみてほしい。			
	全部	239P (150分)	42-55	2020/12/01 11:50:26

あべこべ ☆☆☆☆	この本は社会の様々な関係について、ネットワークというとらえ方で考察を入れていく、という内容である。まず前半では関係があるもの同士を線で結んだものをネットワークといい、その線の数や密集具合など状況に応じて中心となるものを探し出し、そこへの働きかけを強めることが全体への利益になる、という内容が学級閉鎖や伝言ゲーム、サプライチェーンなど様々な例を用いて示されている。ここでは病院内の院内感染の例なども書かれており、クラスターを防ぐにはネットワークの密集具合であるコミュニティにたくさん所属している人への対応を優先すべきである。 後半ではネットワークが三人ともつながっている三角形という形について、そのつながりの強さが書かれている。なぜならネットワークを形成できるのはタイプが近いからであり、そういう人間が
--------------	---

	三人集まった時そのつながりは互いにいい影響を及ぼしあうということである。これには二つの意見が存在し、三角形は強いつながりなので守っていくべき、という考えと三角形のつながりは考えが似ているので偏った考えになってしまう、というものである。この二つについて時間軸を取り入れた考えや矢印を用いた例など様々な具体例が出ていた。 自分がこの本で特に興味を持ったのはテンポラルネットの話である。これは上で述べた時間軸を取り入れたネットワークであり、これを用いることで人間関係やその力関係など様々なことがわかるという。そのビジネスへの応用例も書かれており、全体的に興味深い本だった。			
	3-229	227P (240分)	87-90	2020/11/30 15:03:45

yasu ☆☆☆	著者の経歴から数学的な観点が強い書籍と思っていたが、社会生活における多様で多岐にわたる事象に対してネットワーク図を用いて説明されており、理解が進んだ。三角形を形成することにより、副次的な情報伝達ルートを持たせることができ、噂を流行させることができるということが分かった。 ネットワークの分断は現在全世界が襲われている新型コロナ禍における隔離対策につながるものと思える。また、医療現場における予防接種の適用者も同様に新型コロナワクチンの適用をどうすべきかとの課題につながると考える。三角形の強さについて、三角形は情報の伝搬速度を遅らせるが、信用度を高めるので、情報の定着を促し、次への伝搬力が強くなるということを理解した。三角形を形成し、中心性を得ることの効用を理解したが、なかなか難しいと思う。先ずは知り合いの紹介から始めようと思う。			
	1-227ページ	227P (300分)	87-100、119-127、 175-183	2020/11/29 20:19:59

こー ☆☆☆☆☆	本書は人間関係や銀行間のお金、検索エンジン、さらには今話題の感染症などの、日常に潜むネットワークを「中心性」と「三角形」という2つの観点から解き明かす内容となっている。「中心性」とは、与えられたネットワークにおいて各個人に対して割り当てられる得点のことであり、この得点はネットワークにおいて「何を心とするか」によって異なる。たとえば、筆者によれば感染症拡大を抑えることにおいて中心となるのはネットワークを分断することである。したがってこのときの中心性が高い人物は、取り除くことで効率よくネットワークを分断できる人物である。また、「三角形」とはネットワーク上でそれぞれ直接つながっている3つの頂点のことである。簡単な例を出すと互いに友人関係にある3人組のことである。前半はネットワークの特徴を明らかにし、その上で具体的にどのようにそれが応用されているのか述べることで、後半はネットワーク上「三角形」があることの具体的な利点や「三角形」を作る具体的な方法などが主な内容である。 個人的にはグーグルの検索エンジンに活用されているページランクの話題と、ページランクの考え方を様々な例、たとえば企業の成長率などに適用できる、という話が興味深く、そこが立ち読みポイントである。 数学を用いずに図を用いながら身近なネットワークや、意外なところで活用されるネットワークを解説してくれている。その上で、私たち個人がネットワークをどのように活用するか(三角形をいかにして作るか)まで教えてくれる。ネットワーク理論を勉強した人にも、全く知らない人にもおすすめの一冊です。			
	1-229ページ	229P (210分)	94-110ページ	2020/11/29 03:13:24

moshu ☆☆☆☆☆	2020年現在、コロナウイルスによって自粛などが騒がれ人との交流が少なくなる中、本書は人と人との関わりについて人の形成するコミュニティとそれを形成するにあたって重要な三人間の関係について掘り下げた今の情勢と関わりのあるテーマを扱っている。特に立ち読みポイントで指定した第2章の部分では、院内感染を防ぐために限られた予防接種を誰に投与すべきか？という問題についての話が進められており、今後コロナウイルスのワクチンができた際に起こりうる状況かと思うので、この章だけでも目を通すことをお勧めしたい。 また、本書のタイトルから人の交流について触れられることは自明だが、検索エンジンの仕組みやオンラインショッピングサイトの推薦システムなどの理系的な内容にも深く触れているものとなるので、タイトルで食わず嫌いをしている場合は、色々なジャンルに触れる内容をなめるので是非読んでみていただきたい。 近頃、家での時間が増えた関係もあるのか自殺者が増えたというニュースを聞いた。そんな中この本を通し、人と関わりにくい世の中になったとはいえ人との交流とその関わり方が大事になってくるということを再認識させられた個人的に興味深い一冊であった。			
	1-239ページ	239P (120分)	35-56ページ	2020/11/27



マーケットデザイン

著者名	坂井 豊貴	発行年	2013年
出版社名	ちくま新書	ページ数	232ページ
値段	780円	ISBN	978-4480067340
コメント	旬な話題のマッチング理論にコンパクトな入門書が出ました。 腎臓ドナー問題、学校選択に結婚相手選び、周波数オークションと、定番がずら〜と並びます。図表がたくさん入ったていねいな解説なので、初心者さんは理解が進み、知ってる人はハイスピードでおさらいできるはず。 せっかく最先端の研究をしておられるのだから、坂井先生オリジナルのお話も聞きたかったな。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム	コメント		
お勤め度	読んだ場所	読んだページ数 (時間)	立ち読みポイント
			投稿時間

かにかま ☆☆☆	本書は慶應の坂井先生が書いた、マーケットデザインに関する本です。ちなみに、ミクロ経済学第二の後半の多数決の分野の参考書も同じ坂井先生の本でしたね。本書の内容は、マーケットデザインの中のマッチング理論とオークション理論です。マッチング理論はその名の通り、あるものと別のものの組み合わせを考える分野で、より効率的な組み合わせを模索しています。オークション理論はオークションに関する理論で、どのような制度のオークションがより適切かを論じています。難しそうな印象はありますが、数式を使わず感覚的に理解できるようかみ砕いて説明してくれているので、読みやすかったです。 立ち読みポイントはオークション理論の導入部です。オークションが満たすべき良い性質とはどのようなものなのかについてかなり丁寧に説明されており、とても納得しました。例えばここで挙げられている対戦略性は、満たされているメカニズムの方がそうでないメカニズムよりもよいメカニズムと言っても構わないということについて異論をはさむ余地はないかなと思います。 既に述べたように、本書は数式が用いられていません。よって、大まかな内容を掴むには最適ですが、数学的な正しさや証明は割愛されています。しかし、「読書案内」の章には関連する書籍が載っているので証明などに興味がある場合に次に読むべき本もわかります。			
	1-223	223P (200分)	167-192	2020/11/30 14:38:16

J.T ☆☆☆☆	マーケットデザインという言葉を知って皆さんはどのようなことを思い浮かべるでしょうか？ デザインというから設計に関することやアートに関することを思い浮かべる人がいるかもしれませんが。そのようなことを考えた人にとっては残念かもしれませんが、この本は主に経済学のことについて書かれています。ただ数式の羅列等による説明は無く、言葉で詳しく、そして感覚的にわかりやすいように書かれているので読みやすい一冊となっています。 1章では臓器提供を主軸としてマッチング理論はどのようにして成り立っているのかが説明されています。 次の2章において、私たちの日常の中で、実際に愛称を考えた方がいい、実感が湧くものを具体例にとって、1章で説明をしたマッチング理論を用いて、詳しく解説されています。 最後の3章では、ゲーム理論でも少し扱ったオークションについての説明がされています。一見、
-------------	---

臓器提供とオークションとは関連性がないように思いますが、よくよく考えてみると関連性があり、どうして同じ一冊にかかれているのか納得できると思います。 ただし、この本はわかりやすい言葉のみで、数式をあまり用いないで書かれているため、初めて学ぶ人にとっては非常に良い一冊であると思いますが、詳しく数式などを用いてどうしてそのようになるのかが知りたいといった人にとっては内容が薄く感じるかもしれません			
007-223	217P (210分)	50-54	2020/11/29 13:13:25

ミニー ☆☆☆☆	マーケットデザインってなんだろう？ここは芸術の世界ではなく、経済と数学の世界です。一緒に論理的で最適な解決策を考えてみましょう。まずは腎移植でのドナーの交換について考えます。そしてマッチング理論が複数人での両想いの実現を成功させるのになぜ有効なのかについて。その秘密は対戦略性すなわち具体的には駆け落ちが生じないことが重要になってきます。どうやって安定マッチングを見つけるのか、その方法を図とともに丁寧に説明しているので誰でもきつと理解できるはずです。これは研修医の就職活動や学校選択の事例にも応用できます。このように世の中には意外とマッチング理論を使った事例があるのです。あなたの身の回りにも実はこの理論で解決できる問題があるのではないのでしょうか？また、いくつかのオークション方式についてその仕組みとメリットデメリットについても知ることができ、ここでも耐戦略性の話が出てきます。ノーベル経済学賞にもなった、新しい経済学について興味を持てる一冊となるでしょう。		
	全部	223P (180分)	98-101 2020/11/28 19:17:56

こー ☆☆☆☆	本書は経済学の一分野であるマッチング理論の入門書である。マッチング理論が経済学なのか、という指摘があるかもしれないが、アダム・スミスやレオン・ワルラスが築き上げてきた経済学と「需要と供給を一致させる」という点でマッチング理論は一致している。その一方で、これまでの経済学は「市場で需給一致が実現する」ことを扱うのに対し、マッチング理論は「需給を一致させる制度をいかにして作るか」ということを扱っている点でこれまでの経済学と異なっており、そこが面白い。 腎臓ドナー問題、結婚相手選び、周波数オークションなどの多彩な分野へのマッチング理論の応用を示してくれる。まずは「良い」解を導くアルゴリズムを紹介し、図表を用いながら解を求める過程をわかりやすく説明、そしてその解が本当に「良い」のか様々な観点から分析、というのが基本的な流れである。特に面白いと感じたのは、オークションの形式として馴染み深い競り上げ型オークション(e.g. ヤフオク)と、あまり馴染みがなく、(個人的には)直感的に分かりづらい第二価格オークション(一斉に買い手が希望価格を売り手申告、一番高い価格を提示した買い手が、全体で二番目に高い希望価格で商品を購入する方式)は、オークションで扱う財が1つの場合、買い手の直面する状況は同じであり、最終的な結果は同じになる、という事実である。 本書は数式を用いていないため、マッチング理論の大まかな概要を簡単に知ることができる。300番台の協力ゲーム理論と共通する部分が多いため、これから履修する人や、履修して他の応用例を知りたい人などにおすすめである。逆にアルゴリズムがなぜ上手いのかなどの証明を知りたい人には向かないかもしれない。		
	1-223ページ	223P (180分)	167-189ページ 2020/11/15 02:46:32

[TOP](#)



日本人の知らない日本語 1-4

著者名	蝦蔵&海野凧子	発行年	2009年
出版社名	メディアファクトリー	ページ数	100ページ
値段	880円	ISBN	978-4840126731
コメント	毎年の人気本です。国際交流最前線。 日々コレ疾風怒濤のナギコ先生とご一緒にどうぞ。ドラマ化まで行くブームになったのもナットクのおもしろさと含蓄深さです。 ※単体で読めるので、1-4巻のうちのどれかをお届けします。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数 (時間)

立ち読みポイント

投稿時間

usg ☆☆☆☆☆	日本人の知らない日本語シリーズは、主人公の日本語学校教師が留学生達の頓珍漢な日本語にツッコミを入れてく漫画。 しかし、その内容は私たち日本人も知らない、またはあやふやな日本語の使い回しに言及している部分も多く、非常にためになる。 個人的に一番難しい内容となっているのは、敬語の用法で、外国人だけでなく日本人にとっても難しい内容で使い方も間違えることが多い。そんな日本人のためにもなるような、日常生活で間違えやすい敬語を紹介していた。また、手紙の書き方についても漫画なのに細かく説明していて、読んでいる際に特にくどいと思うこともないのも読みやすく素晴らしかった。 また、外国人留学生からみた日本の印象などが小休止で使われている。普段日本に住んでいい当たり前だと思っていることが、外国人からするととても意外でびっくりすることがたくさんあることがこのシリーズ3巻でよくわかります。 色んな国の文化に興味あったり、日本の文化や様々な事象を客観的にみたいならこの漫画をオススメします。		
	3巻	150P (30分)	特になし
			2020/11/30 15:01:06

kororo ☆☆☆☆☆	この本は日本語学校で教師をしている筆者が、外国人の学生に質問されたことなどをわかりやすく面白くまとめた本です。 その中で僕が面白いと思ったものをいくつか紹介したいと思います。 一つ目は飲食店でよく使われる敬語で「ご注文の方以上でよろしかったでしょうか」というのがあります。正しくは「ご注文は以上でよろしいですか」ですが、上の方が丁寧な言葉に感じます。過去形の方が丁寧になる英語の感覚に似ていると思いました。 二つ目は「を」と「お」の発音は実はどちらもoと発音することです。これは僕も初めて知りました。確かに文章中ではwoと発音していることはない気づかされました。 三つ目は今、標準語として使われるはももとは標準語でなかったということです。例えば、とても身近な言葉では「です」という言葉はもともと水商売の女性の言葉遣いだったのです。地方から
-----------------	---

やってきた武士がこの言葉を覚え、標準語だと思って広めた結果本当に標準語になったということでした。

1 1-141,2 159

300P (60分)

1 1-15

2020/11/23
16:45:39

[TOP](#)^



目で見ることば

著者名	おかべたかし/山出高士	発行年	2013年
出版社名	東京書籍	ページ数	176ページ
値段	1,300円	ISBN	978-4487807871
コメント	なるほど、灯台もとくらし、だ。ナットク！ 表紙の栄誉に預かった引っ張りだこくんやら、几帳面って建築用語だったのか、へえほおふうんと、つい誰かに話したく、もとい、見せたいくなります。 なかでも、ヒイキくんのかわいらしさにぞっこんです。見つけてあげてくださいな。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム

お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

chris ☆☆☆☆	この本を手にとった理由は、1つはシンプルにモノトーンを基調とした本が多い中にカラフルでインパクトのある表紙で目が引かれたこと、そして目で見ることばという矛盾してるかのようにも思えるタイトルが気になり読んでみようと思ったからである。 まず読んでの感想は目で見ることばというのは有名なことわざなどの語源を写真で表現することであり、まさに目で見ることのできる言葉であると思った。ただ独創的な考えから作られたのではなくちゃんと選ばれている言葉が意味を勘違いされていたり、写真だからこそわかりやすいものであり素直にすごいなと思った。更に、1つの単語につき2ページという構成で紹介されているが、1ページ目ではその単語についての写真と意味を詳しく書き、残りの1ページでその単語に関連しての事柄を紹介して何度でも楽しめる見た目以上にボリュームのある本であるなと思った。特に個人的に面白いと思った単語は「差し金」であった。意味としてはもともと人形などを操る差し金から来ていて、黒塗りであるために見えずそこから「影から操る」などの意味に発展したようだ。差し金などという言葉の語源は考えたことも無かったが、知るととても面白いと思った。語源を知るとはその言葉への理解を深めることにも繋がり、それを広めてくれるこの本はとても意味のあるものだった。			
	1-175	175P (60分)	78-81	2020/11/28 10:24:11

[TOP](#)



アイデアのちから

著者名	チップ・ハース&ダン・ハース	発行年	2008年
出版社名	日経BP社	ページ数	342ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4822246884
コメント	なんて、やる気の感じられないタイトル。よっぽど内容に自信があるのかしらん。 単純明快、意外性、具体的、信頼性、感情に訴える、物語性、ぜんぶで六つですよ、みなさん、覚えましたか？ Simple Unexpected Concrete Credible Emotional Story——頭文字をつなげると、ほうら。 いや、覚えるほどのこともないあたりまえの要素。でも、これでもかと挙げられる事例のおもしろさに、つつい読みふけてしまいます。 153ページ「茶色い目、青い目」の実践例が心にしみました。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム

お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

つくし
☆☆☆☆☆

「コカ・コーラを大量に飲むと骨が溶ける」

この言葉聞いたことないだろうか。私は幼い頃これと言われてコカ・コーラを飲むことを禁止されていた（なんだかんだお菓子でしかコーラを体験したことない）。でも街中を見て骨がぐにゃんぐにゃんの人なんか見たことないだろう。そもそも骨を溶かすのは直接コーラに骨を付けた場合で、コーラを飲むことで骨が溶けてしまうなんてことはなさそうである。ではこの文章は何を伝えたかったのだろうか。コーラには大量の砂糖が含まれており幼児が摂取するには多い。ただその事実を伝えても効果が得にくい。そこで発想力豊かで物事を信じ込みやすい子供の恐怖心を仰ぎ、「骨が溶ける」なんていうパワーワードを使ったのだ。

この発想の転換が「アイデアのちから」である。本書は書名も堅いし分厚いしで中々手取りにくい、内容は軽やかにでも充実していて面白い。まずは序章「臓器狩り都市伝説」と「ポップコーン」の話。とりえず読んでほしい。読みやすいことがわかるだろう。さて、アイデアには6つの原則があるようだ。「単純明快」「意外性」「具体的」「信頼性」「感情に訴える」「物語性」。自分の興味のある原則から掘り進めよう。どれを読んでも財産になること間違いなしだ。

もし新たな事実を見つけてもそれをどう発表するかで世間からの評価はかわる。今後活躍するために先人の知恵を借りよう。読書に没頭できるのも大学生の特権である。

全部

349P (280分)

8-14ページ

2020/11/30
23:11:28

[TOP](#) [^](#)



伝え方が9割

著者名	佐々木 圭一	発行年	2013年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	208ページ
値段	1,400円	ISBN	978-4478017210
コメント	みんなが知りたい女の子のじょうずな誘いかた。 そんなとても親しみやすい話題から入って、サブライズ法だのギャップ法だの、いろんなノウハウを楽しげに伝授してくれます。 まあ、人生そんなにうまくいかないにしても、何かひとつヒントをもらえれば、めっけもん。パート2も出ました。		

讀者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	読んだ場所	読んだページ数（時間）	コメント 立ち読みポイント	投稿時間
団子 ☆☆☆☆☆	その頼み方、言い方を少し変えるだけで成功率が全然変わる方法があるとしたら知ってみたいくないですか？ 私は現在アルバイトで塾講師をやっている。そのこともあって日ごろから最近は、どうやったら生徒に自分の言いたいことが伝わるのだろうか？声質なのか、ジェスチャーなのか、表情なのか。様々考えて、ネットで検索して、複数の話し方の本を読んでみたが、なかなかこれといった方法がつかめないまま日々授業をしていた。しかし、この本は分かりやすかった。 私が感じた、この本がほかにある話術系の文献と何が違って何が良いのかと思ったのは、具体例がしっかり書いてあって、論理だけを説明されるよりも「確かになぁ」と納得できる点だ。この具体例も、東工大の男子なら知りたであろうし、どうして良いかすらわからないこともあるだろうが、女子をデートに誘う時の言葉の運び方なども乗っている。 自分は分かっているが、というのはこれを読んでからは言い訳にしかならない。相手に正しく伝わってから、伝えてからがコミュニケーションなので、皆さんもこの機会にぜひこの本をお手に取ってみてください。			
	208	208P (180分)	122	2020/11/30 23:28:23
bora ☆☆☆☆☆	自分の伝え方次第で、相手がイエスと答えるか、ノーと答えるか違うとき、あなたは最適な伝え方ができますか？僕には難しいと思います。 しかし、本書ではその伝え方を丁寧に、何ステップにも分けて説明してくれています。例えば、「自分の頭の中をそのまま言葉にしない」だったり。そして、読者がいることを意識して、まるでプレゼンのように太文字やイラストを駆使して書かれた本書はとても読みや酸かったです。また、本の初めに本書の内容を要約したペーパーが付録されており、本を読み終わっていくらか時間がたった後でも、それを読み返すだけで本書の内容を思い出して、応用することが容易でした。 僕が個人的に大事にしている伝え方があって、それは「ごめんなさいよりありがとう」です。本書でも少し触れられていましたが、人はごめんなさいと言われるよりもありがとうと感謝された方が気			

持ちいいものです。このことを知って以来、ずっと意識的にありがとうを言うようにしています。そんなうまい伝え方をしたいそこのあなた！ぜひこの本を手にとってください。			
すべて	205P (240分)	手帳にはさめる超縮小版	2020/11/30 22:13:27

pero ☆☆☆☆	どのような伝え方をすれば相手の返事をノーからイエスにできるのか、どのようにして心を動かすエネルギーのある言葉を作るのかを説明した本であった。一番心に残っているのは、お願いをするとき相手の頭の中を想像して、相手のメリットと一致するお願いを作ると良いということだ。率直な気持ちが一番相手の心に響くというような話を聞いたことがある気がするが、内容が同じなら自分のメリットが提示されているほうが確かにイエスと言いたくなるなと思った。 すぐに実践できるくらい分かりやすく伝え方が説明されているが、この本を読んだだけですぐ上手に伝えられるようになる訳ではなく、この本に書かれていたことを意識して伝える練習をしていく必要があると感じた。家族や友達、バイト先の人などに頼みごとをすることがよくあるので、さっそく本に書かれている伝え方を実践してみようと思う。普段断られることはあまり多くない気がするが、ノーがイエスに変わったり、気持ちの良いイエスが返ってくることが増えたりするかもしれない。		
	1-208	208P (120分)	56-61 2020/11/30 17:03:42

雨男 ☆☆☆	街にあふれている「エモい」言葉をどうやって作るかを解説した一冊。読んで最初に思ったのは、「挿絵の画質もうちょっとしっかりならなかった？」であるが、まあそれは置いて、流石コピーライターが作る本で、随所に飽きない言い回しや分かりやすい言い回しがちりばめられていて、読んでいて飽きない。 ただ、内容の豊富さに関しては疑問が残る。無駄に大きい章や節のゴシック太文字、空白を埋めるためだけの挿絵、など…。このページ数は、この本の内容を伝えるには多すぎるのではないかなと思う。正直、半分のページ数で、効率よく筆者が伝えたい（伝えれば良いと思っている）内容を伝えることが出来たのではないかなと思う。レイアウト等の完成度はなかなか高いと思うが、本としての本質的な本当の完成度は高いとは言えない。本。 とはいえ、言葉の扱い方を全く知らなかった筆者が、著名なコピーライターになった経験を活かし、伝わる言葉に気付いたきっかけや、そのきっかけをどのように活用してきたかなど、コピーライティングについて何も知らない人にとっても身近に感じられるように書いているのは、一読の価値がないとまでは言えない。本を読みながらいない人にとってはむしろ気軽に読めていいのではないだろうか。		
	全部	200P (30分)	タイトルの太文字以外の太文字 2020/11/30 14:40:44

moshu ☆☆☆☆	コミュニケーションの方法に正解はなく、こうすれば良いと言い切ることは難しく、それを方法論として確立するのはより厳しいだろうと感じます。そんな中本書は筆者が理系の方ということもあり、経験則に基づいてコミュニケーションのコツを数個の方法に分けて紹介しており、内容のわかりやすさもさることながら文章構成や挿絵を多く含めた視覚的にもわかりやすく、本当にコミュニケーションを苦手としている人にとって非常に有用な一冊だと感じました。 コミュニケーション力を上げるといった本はこの世の中に五万とあると思われ、ネット上の信憑性の薄い広告同様、内容を疑うことから始める人も多いかと思います。そんなことを思う有象無象の一人であった私も疑いつつ読みながらいつの間にか内容に魅入られておりました。“内容に信憑性を疑いつつもいつのまにか魅せられている一冊”（本書中で扱われていた表現だったりします）、ぜひ疑い深い皆さんの偏見を壊す一冊にしてみてもはどうでしょうか？		
	1-208ページ	208P (120分)	111-181ページ 2020/11/27 09:52:22

masse ☆☆☆☆	将来仕事などで、人の上司になった時伝え方一つで部下の仕事へのモチベーションや取り組み方が変わってくると思う。そんな時にこの本を読めば役に立つのではないかと考え、読んでみた。この本を読んで最も印象に残っていることは、人に物を頼む時に相手の気持ちを考えなければならないということである。その中でも筆者は相手の「認められたい欲」を満たしてあげられるような頼み方だ。例えば、「この仕事やっというて」と淡白にお願いするよりも「この仕事はあなたにしかできないからぜひお願いしたい」と頼まれた方が嬉しいことは言うまでもない。この頼み方を少し変え		
---------------	---	--	--

	るだけで相手も幸せになり、自分も仕事を相手にやってもらえて幸せになる。多くの人はこの事実を頭では理解しているだろうが、実際この本を読むことでその効果を再確認し実践につなげてみることをお勧めしたい。		
	1-208	208P (300分)	1-10 2020/11/26 16:57:09

kororo ☆☆☆☆	僕は昔から伝え方が上手な方ではなかったのでこの本を読んでみようと思った。相手をお願いをするとき、に使えるテクニックが多く書かれていたが、なるほどと思ったテクニックとそうではないテクニックがあったので紹介したいと思う。 まず、これからは使ってみようと思えたのは何かをお願いするときに相手の好きなこと、メリットがあるということを強調して伝えるというやり方である。損得考えずに行動できる人は少ないので相手にもメリットことなら、引き受けてくれやすいと思った。 使いにくいと思ってテクニックは嫌いなこと回避というテクニックで、何かをやめてもらいたいときに、相手のデメリットを強調するというテクニックである。例えば、たばこを吸わないでほしいときに、体に悪いからたばこやめてほしいということである。相手のことを思っ言っているように聞こえるのに、相手のことではなく自分の都合で言っていることが嫌だと感じる。 もう一つ使いにくいと思ったのはお願いする前に感謝をするというテクニックである。ありがとうと言われるとそのあとをお願いに対して断りにくくなる。お願いを通しやすくするために感謝をするというのは、言葉だけ取り繕っているように見える。		
	1-202	202P (90分)	56-59 2020/11/23 16:38:19

児島競艇 ☆☆☆	自分は長い話をするときに構成や説明が下手なのでそれを改善したいと思ってこの本を手にとったのだが、「頼み事で相手に承諾されるためにはどういった伝え方をすればいいか」といった内容で思っていたものと違った。しかし、お願いをするときに本書に書かれていることを全て意識していなかったもので期待していた内容とはちがったが勉強になった。 また、コピーライターが書いているだけあってとても読みやすかった。内容が薄いわけではないのにすぐ読み終わって驚いた。付録の表が本書を1枚にまとめてあるので、1度読み終わったらその表を確認するだけで紹介された技術を思い出して使うことができるので便利。 本書で紹介されていた技術はとても簡単で実用しやすいので日常から取り入れようと思った。コピーライターの人、目指している人は絶対に読んだ方がいいと思う。 本の終盤に、本で学習したことを用いて相手に読まれるための長文を作るという内容が書かれていて、実際にそれを用いてこのコメントを構成しようとおもったが面倒になってやめた。		
	全部	208P (90分)	2-10 2020/11/15 17:32:25

mauro ☆☆☆☆☆	コミュニケーションは大切である。歴史的にみても、人間は他人とコミュニケーションをとることで繁栄してきた。現代的に見ても、コミュニケーションの必要のない機械的な職業は、AIに代替されてしまうだろう。つまり生きる上で、他人とコミュニケーションをとることは避けては通れないだろう。また、少しコミュニケーションを工夫するだけで、相手に良い印象を与えられるとすれば、コミュニケーションの技術を学ぶことは重要だ。 また、現代ほど「個人が発信する情報」が重んじられる時代はないと感じる。テレビで「〇〇企業のおすすめ商品」などと紹介されたものと、身近な友達に「これめっちゃいいよ」などと紹介されたものを比較してみてもいい。後者の方が気になってこないだろうか？この原因は企業への不信と情報の氾濫にあると思う。偏向報道や企業の詐欺など、漠然と組織というものに不信感を抱いている人は多いだろう。昨今ではメディアリテラシーが必須とよく言われているが、まさしくその通りで、嘘を嘘と見抜けないと生きていけない。しかし、僕らのまわりにはあまりにも多くの情報があり、正しく処理するのは難しいだろう。そこで求められているのが、個人が発信する情報だ。その個人がどの程度信用できるのかで受け取り方も変わってくると思うが、個人が名前を出して発信したものは、それなりに信じられるだろう。また、eコマース市場においては、たいていの人はレビューや評価を買うかどうかの参考にしている。このことから、匿名での情報発信であっても、ある程度の効力があることが分かるだろう。その個人の情報をうまく伝えることができた？その方法がこの本に詰まっている。		
	1-208	208P (140分)	2-10ページ 2020/11/13 14:51:13

とっこハム次郎 ☆☆☆☆	ものすごく読みやすい書籍だった。コピーライターの書いた文章だけに最初のページから流れるように読むことができた。読んだ2時間強の時間があったという間に過ぎました。読む価値のある本です。自分のつかっている言葉がいかに弱い言葉、人に届かない言葉であるかが分かった。 この書籍では初めに言葉によって相手の大きく変わることが示されています。領収書を落とすときに、 「この領収書、落とせますか。」と「いつもありがとう、山田さん。この領収書、落とせますか。」というのでは結果が全く異なる。このことからわかるように言葉は人生の重要なシーンの成否を分けうるのです。しかし、鍛えている人はほとんどいません。この本を読み進めていけば強い言葉を作るためのレシピが手に入ります。 しかし、少し読んでいて怖くなった部分もあります。この本では他人を自分の感情通りに動かす駒にしか見ることができない部分が散見されたことに少し違和感を覚えました。 一度手に取ってみてください。			
	1-280頁	208P (140分)	22-27	2020/11/09 09:41:06

monica ☆☆☆☆☆	人に頼み事をするときにどのような言い方をするといいのかということについて書かれた本である。生きている中で人に頼みごとをする機会は多くある。当然その要求を通したいから頼みごとをするのであるが、そのすべてが通るとは限らない。その中で、普通であれば断られることを言い方を変えることで受け入れてもらえる確率が上がるというものなので、とても実生活に役立つ本だと思う。例えば「トイレをキレイに使ってください」とコンビニなどのトイレに張り紙をするのではなく「いつもトイレをキレイに使ってくださってありがとうございます」と張り紙をしているのは昨今よく見られると思う。自分は普通に書いていないのはなぜだろうかと考えていた。この本によるとこのように感謝を伝えると相手はしっかりトイレをキレイに使わなきゃいけないという気持ちになる。さらにこれは何もコンビニのトイレのみに使われる方法ではなく、普段頼みごとをする時でも「これをしてください」とだけ言うのではなく「いつもありがとうございます。これをしてください」と言うのでは相手の気持ちが大きく変わるのではないかと思ったこのように相手の相手の気持ちを考えて伝え方を工夫するのも上手なコミュニケーションの秘訣の一つだとこの本を読んで学んだ			
	1-208ページ	208P (120分)	64~86	2020/11/08 13:17:38

pu ☆☆☆☆	どうやったらコミュ障が治るだろうか。そう考えたことがある東工大生は多いと思う。私自身も自他ともに認めるコミュ障であり、人に自分の思いや意見を伝えることが苦手である。集団授業の塾講師のバイトをしている身としては生徒の注意を引いたり、大事なところを強調する、生徒との友好的なコミュニケーションをとる、などの能力も磨かなければと思い、また、純粋に彼女が欲しい、彼女が欲しい、というやましい願望を持ちながらこの本を手にとった。 この本には相手に自分のお願いをうまく通す方法と、相手の心に残る強いコトバをつくる方法の二種類についての「レシピ」が書かれている。つまり、コトバのセンスがある人が無意識にやっているようなことをマニュアルとして手に入れることができる。実は、何よりもはじめに変えなければいけないことは“自分の頭の中をそのままコトバにしない”ことである。そんなことかよっ！と思った方もいると思う。私もこれを見たときに一瞬読むのをやめようかな、という気持ちになった。しかし、今までの人生を振り返ってみると思ったことばかりしゃべっていたような気がして、恥ずかしい気持ちになった。意外とできていないなど。自分のお願いや伝えたいことをそのまま話したり、書くだけでは相手には受け入れてもらえないことが多いのである。この理由や解決策は簡潔でわかりやすく書かれている。 YouTubeによくある「モテる話し方」などの動画がバカらしくなるくらい、この本は基本的で実用的であると思われる。就活やビジネスシーン、告白やプロポーズ！？などの人生の大事な場面で、この本に書かれた伝え方を利用して人生をより幸せにしてみてもはどうでしょうか。 (実は、この書評の中にも伝え方のテクニックを少しばかり織り交ぜてみた)			
	全ページ	208P (150分)	132-148	2020/10/29 03:34:02

[TOP](#)



伝え方が9割 2

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

著者名	佐々木 圭一	発行年	2015年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	263ページ
値段	1,400円	ISBN	978-4478028384
コメント	このシリーズは両方読んだら、そのぶん2倍役に立つオススメ本なので、別立てにしておきます。		

読者投稿欄

コメント登録

	ペンネーム	コメント		
	お勧め度	読んだ場所	読んだページ数 (時間)	立ち読みポイント
ニャンコ ☆☆☆	この本は18年間言葉に携わる仕事をしてきて、言葉について分かった「コトバの法則」をわかりやすく、読者に実践してもらいながらよい伝え方を伝授しようとして書かれました。1巻とはちがひ、読者から寄せられた1巻をよんでそれを実践することで得た成功体験を含めながら話が進められているため、より説得力がましと言えらるだろう。2章にわかれており、前半は「ノーをイエスに変える技術」について、後半は「強い言葉をつくる技術」についてであり、どちらも完璧に身につけることができれば人生におおきくプラスに働くことだろう。とくに1章は、私生活やビジネスでも活用できる。伝え方を変えるだけで、同じ意味の言葉でも受け取る側にとっての印象は大きく変わるし、頼む側はイエスを引き出しやすくなる。本を読むことでこの技術を身につければ、自分の思い通りにことが進むことが多くなると思います。自分もこの本で書かれていたことを実践し、伝えることが上手い人になりたいです。			
	全部	263P (150分)	37-47	2020/11/30 23:28:35
雨男 ☆☆☆	まずこれだけは気に留めておいてほしいのだが、これはまあ一応続き物になってるから読んでみるかみたいなノリで借りた一冊。よんだ感想としては、別に二冊とも読む必要はないな…決していないな、というもの。(なんと実際に前書きの部分にも、1を読む必要はないという旨の記述がある)このレビューを読んでくれたあなたにこそ知っていてほしいのは、1が言葉の使い方の教科書的なものならば、この本は参考書・問題集のようなものであると言えるということ。という風に本の内容を実践してきたが、以下は普通に書く。 内容的には7割がた1と被っていると思う。著名なコピーライターがどのような思考でコピーライティングをしているか知りたいだけなら1、自身の生活で実際にある程度使えるようになりたいのなら2を読むことをお勧めする。ただ、1の時にはあった、内容の薄さは健在。「なんこれ」みたいな挿絵は減ったものの、「これ伝えるのにこんな分量いる？」感はある。(コメント記入時点での)もう一方のコメントにもあるように、一文字一文字丁寧に読み込んでいくことはしなくてもよく、太文字を流し読みしつつ気になったところはその周辺の話を読み込んでみるという読み方がおすすめである。			
	全部	250P (60分)	タイトルの太文字以外の太文字	2020/11/30 22:46:55

ていてい
☆☆☆

これはすごい！！今年読んだ本の中で1番手軽な本！！

みなさん知っていましたか？僕は1日に平均22回も何かしらをお願いをしてもらっています。伝え方を工夫することによりYESがもらえる確率を高めることができます。仮にYESがもらえる確率を5%でもあげることができれば1日に1回より多くをお願いを聞いてもらえることになります。もう、伝え方の工夫をするだけで人生が好転すると認めざるを得ないですね。

この本は2章の構成になっています。

第1章ではイエスをノーに変える伝え方のテクニック、
第2章では強い言葉を作るためのコピーライティングのテクニックが書かれています。
それぞれの章では、初めに重要なテクニックの型が紹介され、その後実際にテクニックを用いた事例が列挙されているという構造になっています。
伝え方についてものすごくシンプルにまとめられているので手軽に学ぶことができます。

この本の読み方としては、書かれていることを全て読む必要はないと思います。基本斜め読みをしながら太字のところだけを注意して読めば大体理解できます。もし興味深い話をしていると思ったら細字も読みこむ、という読み方をお勧めします。

もしこの本を読み終わった後に、読み足りない、もっと深いところまで知りたい、と思った方にはデールカーネギーの「人を動かす」をお勧めします。伝え方が9割?を読んだとき、人を動かすに書いてあったなーというポイントが何点かありました。人を動かすの方がより濃く、よりたくさん書かれています。お勧めです。

全て1-263ページ

263P (60分)

8-99ページ

2020/11/22
17:57:59

[TOP](#)^



まんがでわかる 伝え方が9割

著者名	佐々木 圭一	発行年	2017年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	224ページ
値段	1,296円	ISBN	978-4478068649
コメント	まんががつつつてもレディースコミック風、舞台もファッション誌と、東工大生のみなさまにおかれましては、ちょっと縁遠いかも、ですが、伝えることのキモは、しっかり描かれています。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数 (時間)

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

unknown ☆☆☆☆	まず、まんがで書かれているのでさっと読むことができる。活字版もあるが、こちらのまんが版でも十分に内容を頭に入れることができると感じた。主人公の口下手な女性がニューハーフの先輩編集者に伝え方を教えていく、という設定で、恋愛が絡んでいたり人間物語が絡んでいたりというように全く堅苦しくなく、すらすらと呼んでいくことができた。この点に関してはまんがならではののではないかな。この本の一番重要な点である「伝え方」についてだが、まんがのストーリーに沿って違和感なく、そして非常にわかりやすく書かれている。まんが版とは言っても全ページがまんがというわけではなく、合間合間に活字での軽いまとめが書かれているので漫画である程度頭に入った後にまとめの部分で整理する、という流れもあり、非常にわかりやすい。また、書かれている「伝え方」についてだが、どれもすぐに、だれでも実践できるような技ばかりで非常に実践的な本といえる。活字版を読んだ方でも軽く内容を見返したいという方にもこのまんが版をお勧めする。		
	全部	215P (120分)	2020/11/29 12:00:15

[TOP](#)



これからの「正義」の話をしよう

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

著者名	マイケル・サンデル	発行年	2011年
出版社名	早川書房	ページ数	475ページ
値段	945円	ISBN	978-4150503765
コメント	大ブームとなった哲学書。 破綻した銀行に公的補助は必要？ のような事例から、ベンサムやロールズやら、判断のよりどころとなる思考体系へといざなってゆく手法が絶妙。哲学の高い峰のはずなのに、名案内人のおかげでするする登れてしまう、みたいな。 がっつり取り組んでも実りは多いけれど、ここは濫読道場。 ぱっと開いて具体的な事例を探す →自分だったらどう判断するか30秒だけ考える →解説を読んで自分は功利主義者かリバタリアンか判断する というつまみ食い法も有効です。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム

お勤め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

わくわく ☆☆☆☆	「なにを正義として行動するべきか」という2000年以上続く議論について、著者も含める様々な哲学者達の思想や立場を明らかにしまとめたものだ。経済について功利主義者ベンサムは「最大多数の最大幸福」を主張し、自由至上主義は稼いだ金は自由に使われるべきであり、所得税は人権に反すると主張し、ロールズは恵まれない人がもっとも有利であるような条件のもとで自由競争をすることを主張したが、サンデルはこれらについて、金の「配分」より「美德」について考えるべきではなく「美德を養い」、よりよい人間になるためにあり、この美德についてはそれぞれの共同体が共有する共通善であるべきだと主張するのが、この本の話の流れです。著者は哲学者であるため他の主義主張に対してやや偏った説明をしている可能性はありますが、現代を生きる上で必要になってくる哲学を、自分の中に一本の軸を通すのに丁度良い作品だと思います。		
	全て	423P (500分)	2020/12/01 20:15:28

ていてい ☆	正義とは何か？ 道徳的な問題点が発生した時、正義とは何か？という意味決定の基準が必要になる。 例えば有名なトロッコの問題 放置すれば5人死んでしまう。自らの手によって路線変更すれば死者を1人に減らせる。 この場合、路線変更すべきか？ 正義には
-----------	---

- 1.幸福の最大化
 - 2.自由の尊重
 - 3.美徳の促進
- の3つの観点が考えられる。

直感と論理はいつも矛盾する。論理的には同じ構造でも、直感的には違う判断が正しいように思えたりそのような意思決定をしていたりする。

3つの観点も、それぞれから相反するような結果が導ける。正義とはなんなのか、客観的に定義することは非常に難しい。
だからといって主観で決められるはずがなく、主観では人によって環境によって正義は変わってしまう。

正義はどう定義すれば良いのか分からないという問題に加えて、正義による問題の答えを出すことは現代の比較的平和な社会を生きる我々にも不可欠であるという課題もある。
正義は人によって、時によって答えが変わってしまうが、答えを出さなければならない場面が多々ということである。

正義の定義
倫理、合理性、法律、自然法、宗教、公平などに基づく道徳的な正しさに関する概念
(Wikipediaより)

ここからは自分の意見を多く書く。

正義は存在しない。

正義とは道徳的な正解であり、道徳については様々な観点がある。それらの観点は互いに相反することが多く、絶対的な正解を出すことはできない。
ということは絶対的で客観的な正義というものは存在しないのでないかと思う。
それぞれが正義だと思っている主観的な確からしさを持って、それを正義として道徳的な問題に対する判断をしているだけだと考える。

イケメンと同じような概念だと思う。
イケメンに絶対的な解はあるのだろうか、おそらくない。人によって好みが変わってくる。その好みは人種や環境、性格、性別、気分、周りの意見等により形成されるものであり、客観的な見方を提供することは不可能である。

誰が一番イケメンを決めるコンテストがあったとして、全員が納得するような答えは出せないものの、大体が頷けるような答えを出すことはできる。それと同様に正義についてもマジョリティーが賛成するような答えが出され、それは比較的説得力をもち、その正義に基づいて問題解決のアプローチがなされる。
しかし、現実的に正しいとされたその答えは本質的には正義ではなく、あくまでそれっぽい正義である。

正義が存在しないからこそ、道徳的な問題に関してはどうしても論理破綻してしまうのだと思う。

正義はアイデア界の住人なのであろう。

この本に関して、哲学的な思考の基礎を作るという目的なら一読の価値はあるだろう。しかし本書には明確な答えが書かれていない。そのため読者それぞれが批判をしながら自分なりの意見を持つことが大切だと思う。
1章だけ読めばいいと思う。あとは各事例に関して人との対話を通して考えを深めていけばいいと思う。(自分も1章以降は斜め読みをした)

全て1-475ページ

475P (180分)

13-55ページ

2020/11/30
20:20:50

ROLAND
☆☆☆☆

「これからの『正義』の話をしよう」は、米ハーバード大学の人気哲学講義「JUSTICE」を書籍化したもの。マイケル・サンデル氏が、身近な例や例え話をいくつか引用し、さまざまな哲学者の思考をベースに、あらゆる角度からそれぞれの事例における「正義」を問いかける構成だ。例えば、あなたがブレーキの効かない路面電車の運転手で、待避線にハンドルを切ればそこにいる作業員一人が確実に死ぬが、ハンドルを切らなければ線路上にいる五人が死ぬという状況に遭遇したらどのような行動を起こすだろうか。結論はすぐに

出るだろうか。道徳的に正しい選択はどちらかはっきり言うことができるだろうか。きっとモヤモヤするだろう。本書では、この暴走する路面電車の話の他にもたくさんのジレンマとともにそれに対する多種多様な見解を述べるので、読者は自分の思考を整理できるだけでなく、自分が今まで持っていなかったような価値観を学ぶことができるので、非常に思考が豊かになることが期待できる。ぜひ一度は読んでみてほしい。

全て

475P (580分)

41-55

2020/11/28
23:05:07

unknown
☆☆☆

正義とは何かを書いてある本ではなく「見る立場によって正義が異なること」や「正義でないものは何か」が書いてある。すべての章が「あるジレンマをもってきて様々な価値観から正しいか正しくないかを考察する」というほぼ同じ構成になっていて、読んでいて面白いのは最初だけでだんだん飽きてくる。非協力ゲーム理論のジレンマの事象やトロリー問題(列車が暴走していて進路に5人の作業員がいて、進路を変更させた先にも1人の作業員がいるとき、どちらを助けるかの問題)のような思考実験について深く考えてみたい人ならお勧めできるが「正義とは何なのか」や「何のために人は生きるのか」のような哲学的な考え方を知りたい人は「嫌われる勇気」とかアドラー心理学系の本をお勧めする。この本を読んでよかったと思う点は現在と過去にどのような価値観が存在したのか(功利主義、自由主義など)またどう変化していったのかを体系的に知ることができ、自分と違う価値観を受け入れる必要性を感じることができたことだ。

全て

380P (480分)

4-8

2020/10/20
10:36:17

[TOP](#)



森 PEACE OF FOREST

著者名	小林 廉宜	発行年	2016年
出版社名	世界文化社	ページ数	240ページ
値段	2,484円	ISBN	978-4418162123
コメント	ちょっとひといき森林浴。ちいさな写真集なのに、心ゆくまで森に浸れます。バオバブの木に白い鳥が止まっているショットに思わず頬がゆるみます。本文(?)中に文字が1コもないのも深い。気に入ったところで立ち止まって、気になるなら巻末インデックスをどうぞ。		

[図書一覧](#)[書籍紹介](#)[読者投稿欄](#)[映画一覧](#)[プロフィール一覧](#)[自己プロフィール](#)[掲示板](#)[読者投稿欄](#)[コメント登録](#)

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数(時間)

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

masse ☆☆☆☆	自分が想像していた以上に「森」でした。四季折々、世界中の森の写真集で見ている癒されるものでした。森の中に生えている小さな花や木の枝がページいっぱい写っていて一人で森に入ってみただけでは気づかないであろう本来の森の姿を見ることができたように感じる。またこの本のすごいと思ったところはこの写真集の全ての写真をたった一人の写真家が撮っているということで、旅の中で何か考えながら一つ一つの写真を撮っていたんだなと思うと作者にとっては写真以上の感動や心の動きがあったのではないかと思わされる。写真を見ながらこの時何を考えて写真をとっていたんだろうと考えながら読むと、一見森の中の何の変哲もない枝に見える写真にもどこか寂しさを感じたりしてくる。皆さんもこの本を読むときは是非そんなことを考えながら読んでみると面白いかもしれない。			
	1-229	229P (60分)	225-229	2020/11/27 16:34:43

[TOP](#)